

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)	市立川西病院あり方検討委員会(第3回)		
事務局(担当課)	総合政策部政策推進室政策課		
開催日時	平成24年10月31日(水) 午後7時から午後9時まで		
開催場所	川西市役所2階 202会議室		
出席者	委員	(別紙委員名簿のとおり)	
	その他	水田副市長、姫野病院事業管理者、丸山病院長	
	事務局	本荘総合政策部長、石田政策推進室長、飯田政策課長、笠島政策課員 山田経営企画部長、芝経営企画室長、新田経営企画課長 矢吹看護部長、西森理事兼地域医療連携室長、橋本看護部次長	
傍聴の可否	可	傍聴者数	9人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	(別紙会議次第のとおり)		
会議結果	(別紙審議経過のとおり)		

# 市立川西病院あり方検討委員会委員名簿

平成 24 年 10 月 31 日現在

(敬称略 / 50 音順)

	委員氏名	職業等	選出基準	備考
1	甲斐 良隆	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授	学識経験者	
2	加門 文男	川西市コミュニティ協議会連合会理事	市民・利用代表者	
3	竹本 博行	川西市医師会会長	医師会代表者	副委員長
4	土岐 祐一郎	大阪大学大学院医学系研究科外科学(消化器外科)教授・大阪大学医学部附属病院消化器外科 診療科長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	
5	難波 光義	兵庫医科大学内科学糖尿病科主任教授・兵庫医科大学病院 副院長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	委員長
6	西 育良	公認会計士	学識経験者	
7	松本 圭司	兵庫県阪神北県民局伊丹健康福祉事務所長	地域医療関係行政機関の職員	

## 市立川西病院あり方検討委員会（第3回）会議次第

日時：平成24年10月31日（水）  
午後7時～

場所：川西市役所2階 202会議室

### 1 開会

### 2 委員長あいさつ

### 3 議事

- (1) 市立川西病院のあり方検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料1】  
運営に係る制約について

経営の方向性の検討について

- (2) 市民アンケートの概要について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料2】

### 4 今後のスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料3】

### 5 閉会

## 審 議 経 過

発言者	発 言 内 容 等
	<u>前回の振り返り</u>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 存続ありきで病院のあり方を検討していくが、小児科、産科、循環器科（高齢者）、整形外科は残し、その他の細かな診療科については、経営の方向性も含めて検討してはどうか。</li> <li>・ 近隣市町の利用者も多いことから、市民以外への一定の助成等も検討してはどうか。</li> <li>・ 立地及びアクセスについては、当病院や商業施設等を含んだアクセスルートの整備が望まれる。利用者だけでなく、医師等の通勤アクセスも考慮する必要がある。</li> <li>・ 最大の課題である医師の確保については、立地も踏まえ、先に述べた科目を中心に人員を確保していきたいとの病院側の考えに従い、大学医局側でも可能な限り協力をしていく。</li> <li>・ これらの意見を踏まえ、運営に係る制約及び経営の方向性について議論いただきたい。</li> </ul>
	<u>市立川西病院のあり方の検討について（現状と今後の検討内容について）</u> <u>阪神北地域で見た疾患別の分業及びアクセスの整備について</u>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産科、小児、救急などコアの診療科を残し、他の診療科については地域に任せるとような方法もひとつではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各市町村でも人口が減っている中では、近隣市町全体で協議する場を設けてはどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近隣市町との連携で、この科目ならこの病院というような協議をする組織を設けるのも一つの手かもしれない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院がおかれている状況は急速に失速しているため、まずは先2～3年間を見込んで、即効性のある施策、つまり経営の方向性の検討に早急に踏み込むべきである。</li> <li>・ バスについては、市立芦屋病院のケースと同じように、市立病院にだけ行くのではなく、周辺の病院も回るなどの工夫が必要ではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近隣の病院間で、経営的にまたは運営的に分業ができる点はないかということについて、副委員長はどうか。</li> </ul>

発言者	発言内容等
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川西市は高齢化が進んでいるが、高齢者疾患の受け皿としての役割を果たす施設は周辺にはないので、経営の一つの切り口にはなる。</li> <li>・ 協立温泉病院では、認知症を含めた療養に対応しており、ペリタス病院は急性期疾患、脳神経外科に十分な対応ができる病院となっている。</li> <li>・ また、協立病院は急性期疾患がメインだが、第2協立病院は重症患者を対象とした入院施設となっており、一般の外来はほとんどない。</li> <li>・ 現在第2協立は非常に収益を上げているため、診療科を絞るという点では収益向上の一つのヒントになるだろう。ただし、公立病院としての性格をどこまで担保できるかを考慮する必要はある。</li> <li>・ また北部では、猪名川町にも2つの病院があるが、そこの住み分けも考慮していくべきである。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員は、消化器外科専門の立場から、呼吸器系の悪性疾患は川西市以外でカバーできると思われるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 呼吸器については、南部は宝塚、伊丹、池田でカバーできる。心臓外科は、市立池田病院や宝塚さとう病院が対応している。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 婦人科・産婦人科や、高齢者のCOLやADLの維持のために泌尿器科も必要であるがいかがか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泌尿器科では、池田市が一番医師数が多く、5～6人はいると思われる。</li> <li>・ 外来の比率が多くなると思われるので、外来機能を重視すべきである。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外来となると、立地の話になる。川西が特化したいところにはマンパワーを確保し、それ以外は病診連携でカバーするという施策が必要である。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>市民ニーズへの対応と病院の収支について</b></p>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在は、専門医志向が強くなっており、心臓ならすぐ国循といった志向がある。</li> <li>・ また、病院の経営には外来をしない方がコスト面含め収支面では有利と聞かすが、市民からすると利用しやすいのは外来で、そのようなニーズも重視すべきである。</li> <li>・ 他地域に比べて、北部はクリニックが不足してくると思われる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営面での多少のマイナス側面があるが、市民ニーズや公立病院としての役割を考えると、経営形態の変更はあっても外来機能はある程度重視すべきである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療科については、川西市は比較的恵まれている。整形外科医が0人になって</li> </ul>

発言者	発言内容等
委員	<p>も、どこかに運ばれ、治療されていると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今すぐに整形外科医は揃えられないが、医師の受け入れ体制は整えておく必要がある。</li> <li>・ また、在宅医療の点数が高いことから、在宅医療の充実も必要ではないか。</li> </ul> <p>利用する立場からいうと、症状に合った病院を適切に紹介してもらえる病院が安心である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日生から北部の人、特に高齢者にとっては、近くにあつてすぐに対応してもらえる病院は心強い。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公平な立場で、かつ中堅と若手の医師がチームで見ってくれるなど、適切に振り分ける能力がある病院であるべきだ。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 採算か市民ニーズか、両立は難しい。その点では、公立病院の一つの役割は、民間病院が採算的に担えない部分を担うというセーフティネットであろう。</li> <li>・ 採算か市民ニーズかを議論するならば、健全な赤字、つまりどこまでの赤字が許されるのかという市全体の財政状況を踏まえないと、もぐらたたきの議論になってしまう。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料2の別紙3ページによると、毎年3～4億円の赤字額を計上しているということだが、赤字への対策について、委員いかがか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず病床利用率を上げるべきである。その点では、外来から入院につながるケースが多いことから、近隣病院との連携を密にして外来を増やすべきである。</li> <li>・ 何でもやるのが一番いいのだろうが、何か強みを持つ必要がある。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでのまとめとして、当病院の強みとなる診療科に力を入れ、他の診療科については適切に他院を紹介する流れをつくる。また、市民サービスの受け皿としての外来・救急医療を充実し、病床利用率を上げる。この2点に意見が集約されたように思う。</li> <li>・ また、新たなサービスが始まった時や、専門分野に長けた医師が着任された場合などは、病院の情報を積極的に市民へ発信していく必要がある。</li> </ul>
委員	<p><b>経営形態について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営の専門性やコストダウンがまだまだ必要であることは明確だが、公的な性格上、一方的な採算重視も問題である。</li> <li>・ 市がモニタリングをしながら、方針等についてはしっかり意見を述べたうえで、経営は民間が担うなどの方策が必要である。</li> </ul>

発言者	発言内容等
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公設民営でやるということか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受益者の立場と採算性の両方が必要で、市におんぶにだっこではなく、採算性ばかりでもいけないということである。</li> <li>・ 兵庫県下でそのような病院の例はあるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公営企業全適については、公務員の枠が外れないため、夜間診療や週3日だけ働く医師は雇いにくい。</li> <li>・ 独立行政法人化については、明石市立市民病院が独法化し、公的な枠組みを残しつつ柔軟な経営が可能となっている。公務員ではなくなるので自由度が高まり、職員のやる気も高まる。しかし一方で、人件費は公務員型のため高いままである。</li> <li>・ 指定管理者については、受託する法人の運営スタンス次第となるため、市の意向を確実に反映できるかどうかは不明である。</li> <li>・ 一部事務組合化については、県内では公立豊岡病院組合があるが、市立川西病院については大阪府（豊能町、能勢町）との調整も必要となる。</li> <li>・ 合併については、小野市民病院と三木市民病院が平成25年10月に統合予定で、加古川市民病院と私立の神鋼加古川病院が平成23年4月に統合したところである。診療科のニーズなど、不足している互いの役割を補完できる点では良いのではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組合については他自治体との同意が大前提であるし、診療科の要・不要についてはさらなる吟味が必要になる。他病院の例について、委員はいかがか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独法化か指定管理者が多い。</li> <li>・ 組合立は時間がかかるし、先方に方向性やメリットを明確に説明し理解してもらわないと難しい。またそのために仲介者が必要である。</li> <li>・ 独法化は労働条件から規約など全て変わるため、事務作業が多くなる。</li> <li>・ 管理面では、指定管理者が一番良い。半分公的側面がありながら小回りが利く。</li> <li>・ ただし、市の意向をきちんと理解し運営してくれる法人を募集する必要がある。市の枠組みや方向さえしっかりしていれば、その範囲内で、責任を持って管理ができる法人を募集すれば良い。</li> <li>・ 市立奈良病院が一例であり、周辺病院にも良い影響を与えている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大阪府下で指定管理者を導入している病院の感触はいかがか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阪南市民病院では、ベルランド病院が指定管理者となっているが、働きやすさなどで困るようなことはない。経営最優先の病院はぎりぎりのところまでさせ</li> </ul>

発言者	発言内容等
委員	<p>るのに比べて、公立病院は働きやすいとのことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独法化については働きやすいと聞かすが、独法化したからといって黒字になるわけではない。</li> <li>・ 独法化が公的な枠組みを残しながら自由度が高い。ただし、経営形態の変更については、職員の理解や組合の賛成を得られるかどうかが重要である。</li> <li>・ また独法化よりもさらに公的枠組が少なく、採算も考慮するものが指定管理者である。</li> <li>・ 市の枠組みさえしっかりしていれば、その枠内で自由に動く裁量のある指定管理者を選定すれば良い。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器の購入については制約等はないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器の価格は公的病院と民間病院では大きく違うと聞いている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そのようなものの積み重ねが大きいだらう。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営形態については、猪名川町・能勢町・豊能町からの患者が多いという事実を踏まえれば、各町に応分の負担を求めることは妥当ではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3町にどんな問いかけをするかは、市の方向性が煮詰まってからだらう。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年、3～4億円赤字が出ており、他の施策を実行したくても赤字補てんのために難しくなっていると思われるが、この状況に対して、市としての印象はどうか。</li> </ul>
副市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的に断言はできない点もあるが、不採算医療については、総務省が定める範囲内で、一般会計から7億円程度、経営的な赤字については3億円程度、今年計10億円程度、去年は11億円程度を一般会計から繰り入れている。</li> <li>・ 不採算部分についてはしょうがないものの、経営については黒字か均衡が望ましい。</li> <li>・ 近隣3町の負担については、経営評価委員会や市議会からも以前から話があるが、10億円の赤字が生じたのは近年であり、経年で増加傾向となっていることも踏まえると、仮に負担しろと言うだけでは理解が得られないだらう。その際は新たな経営形態など内容を詰めたうえで調整する必要がある。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建物の深刻な老朽化は実際に利用者も多い3町にとっても課題であり、建て替えに合わせて、市民サービス向上に向け今後の経営の見直しも検討しているため、ぜひ協力願いたいという形で持ちかけるということだらう。市の方で努力</li> </ul>



発言者	発言内容等
	<p>願いたい。</p>
副市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみ処理施設も老朽化していたが、現在一部事務組合で運営している。</li> <li>・ もし組合立を取るならば、本例を参考にしながら実施する。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の立場としては、より患者目線に立ったサービスが受けられるようになれば、経営形態の変更は問題ないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そのとおりで、患者にとっては経営形態に関わらず適切な診療が受けられることが第一義である。</li> <li>・ 問題なのは、市立病院があるにも関わらず他市町の病院に行くという現状であり、やはり市民に来てもらえる病院をつくるべきである。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公務員の視点を越えた経営形態の見直しによって、診療内容の質だけではなく、コスト意識についても、職員の姿勢は大きく変わってくるだろう。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私立の病院で勤務していた時は、無駄なものがないか全て厳重にチェックされた。</li> <li>・ また、保険診療が取れる内容が他にないかも十分に調べるなど、入念なコスト意識を周囲でも醸成することが必要である。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営感覚を持った医師が必要であるということだろう。</li> <li>・ 経営形態の見直しの際は、経営マインドの醸成にぜひ注力してほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間では働けばそれだけの応酬があるのに対し、公立病院は年功序列である。</li> <li>・ 意識改革のためには、報酬の具体的な制度を経営形態とは別箇で設計する必要がある。</li> </ul>
	<p><b>市民アンケートについて</b> <b>アンケート項目について</b></p> <p>(アンケートの概要について事務局から説明)</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず、アンケートの回答者属性について意見を伺いたい。「お住まいの地域」についてはこれで問題ないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北部、中部、南部とするなら、人口は中部が一番多い。人口の割合に応じて抽出したとしても、バランスが悪い面がある。</li> </ul>

発言者	発言内容等
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どの病院を利用したいかという設問と合わせて、車を運転するかどうか聞いてはどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分又は家族が車を持っているかどうかなど、アクセス方法に関する設問を検討してほしい。</li> <li>・ また、5段階選択式にすると3をつける人ばかりになるのではないか。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族構成に関する設問を入れてほしい。北部には高齢者が多いため、独居かどうか、病院に自力で行けるのかなどを確認できる方が良い。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族構成については個人情報に触れない範囲で特定できるようにしてほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問3 - Aで市立川西病院を「知らなかった」と回答した人は、問4では病院の評判やイメージ自体も知らないはずなので、設問内容又は聞き方を再考されたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問3 - A - 1と2を明確に分けるなど、聞き方を工夫してほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問2・問6 を「がんなど“で”末期を迎えた時」に修正願いたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問2で、市立川西病院を利用しない理由を聞くようにしてほしい。理由がわかれば改革につながると思われる。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口の多いところに意見が偏るので、地域別で結果を出してほしい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抽出については、人口に応じて地域ごとに偏りがないうよう抽出し、結果についても、クロス集計の際に地域ごとの分析を行う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見をもとにアンケートを修正し、事務局から委員にメールで送ってほしい。</li> </ul>
<b>市民への情報提供について</b>	
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の経営状況を市民が知らないことが危機である。情報を周知する方法を考えなければならない。</li> </ul>
管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報かわにしで新たな医師が赴任した旨の記事を掲載したところ、病院の宣伝にあたるのではという物議が少々あり、周知方法には検討を要している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料「アンケートを始める前にお読みください」において、地域医療の維持の</li> </ul>

発言者	発言内容等
	<p>ためには他の政策を削減しても優先的な投資は止むを得ないという書きぶりをするか、医療に対する投資を削減すべきという書きぶりにするかによって印象が変わる。どちらを優先すべきか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の累積の赤字は 60 億円を超えており、将来市の負担となる旨を明確に書くべきである。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厳しい現状を明確に伝えたくて、存続について意見を伺うというスタンスの記述にしてはどうか。病院長、何か意見があれば。</li> </ul>
病院長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市立川西病院では、医師不足が収益不足に直結している。また、地域的には高齢者が増え、がんの患者も増えてきている。がんは合併症を起こす場合が多いので、関連疾患が同時に診療できるシステムを将来的に導入できればと考えている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療科の中でも、特にニーズの高い分野を積極的にバックアップしていくという方向性は病院長の考えと一致していると思われる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート結果をどこまで病院のあり方に反映するのか。</li> </ul>
副市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結果はまとまり次第公表するが、そのまま鵜呑みにするというわけではなく、病院のあり方については結果を踏まえて委員会で議論し、総合的に判断していく。</li> </ul>
	<p style="text-align: right;">以上</p>

## あり方の検討：「必要性」「制約」「経営の方向性」の視点

あり方の検討においては、「必要性」を明確にしたうえで、「制約」及び「経営の方向性」を検討する。

### 「必要性」の視点

#### 必要性：川西市民にとって必要か

- 川西市民が必要とする医療機能
  - 川西市民が必要とする医療機能を踏まえて、川西病院の必要性について検討を行う。
    - > なくなればどんな影響がでるか
    - > 何が困るか
- 病床数や医療機器等の規模
  - 川西病院及び周辺医療機関の医療供給体制を踏まえて川西病院に必要な病床数や医療機器等の規模についての検討を行う。
    - > 救急、産科、小児科も含め、必要とする診療科は何か
    - > 代替病院はないか
    - > 病床数
    - > 緩和ケアは維持するのか

#### 関連検討項目

- 清算計画策定・・・  
時期、残存機能、経営形態
- 市内における代替機能確保検討

### 「制約」の視点

#### 制約：「ヒト」「場所」「資金」の面で実行可能か

- 医師等の確保
  - 派遣元医局の協力体制が得られるのか、一定の医療従事者を確保できるのか等の視点により評価を行う。
    - > 川西病院単独で可能か
    - > 困難な診療科目があるのか
    - > 他院との連携・統合により可能か
- 立地の確保
  - 他院の診療圏、中心市街地活性化への寄与、近隣自治体との連携等を踏まえた設置場所の検討を行う。
- 財源の手当(イニシャル・ランニング)
  - 川西市の財政収支計画を踏まえて、実行に当たっての財源が確保できるのか等の視点により、評価を行う。

#### 関連検討項目

- 病院機能再編計画策定・・・診療科再編
- 施設維持補修計画策定・・・負担限度額
- 市内における代替機能確保検討
- 近隣病院・自治体との連携協議

### 「経営の方向性」の視点

#### 経営の方向性：どの経営形態がよいか

- 公営企業全適(現状の経営形態)、独法化・指定管理・事務組合
  - 公営企業(全適)、独法化、指定管理、一部事務組合、完全民営化の各経営形態における課題を整理し、評価を行う。

#### 関連検討項目

- 企業(全適)・・・繰入限度
- 独法化・・・公務員型 or 非公務員型、民間との合併型、不採算科目の取り扱い、繰入限度
- 公設民営(指定管理者)・・・不採算科目の取り扱い、繰入or補助限度
- 一部事務組合・・・近隣自治体との協議
- 完全民営化・・・土地、建物の取り扱い

## 市立川西病院のあり方検討のスケジュール

平成24年10月31日

資料3

市立川西病院あり方検討委員会(第3回)資料

平成24年10月31日

### 第3回会議

- 制約の検討:「ヒト」「場所」「資金」の面で実行可能か
  - 医師等の確保
  - 立地の確保
  - 財源の手当(イニシャル・ランニング)
- 経営の方向性の検討:実行していくためには、どの経営形態がよいか
  - 公営企業(現状の経営形態)
  - 独法化、指定管理、一部事務組合
  - 民営化
- 市民アンケートの概要
  - 時期 11月27日～12月17日(21日間)
  - 対象 16歳以上 3,000人
  - 項目 調査票案を提示のうえ、追加修正意見のとりまとめ
  - 集計・分析 1月中旬までにまとめ

平成25年1月

### 第4回会議

- 市民アンケート調査結果について
  - アンケート結果説明
  - 結果を踏まえた委員会意見の集約(「必要性」「制約」「経営の方向性」の再確認)
    - ・ 特に場所、経営形態については方向性を明示
    - ・ 意見書案の検討

平成25年2月～3月

### 第5回会議

- 意見書の提出
  - 第1回から4回までの議論を踏まえた意見のとりまとめ
- 基本構想・基本計画策定に向けた方向性について

## 市立川西病院に関するアンケート調査について

市民の皆様には、日頃から市政に対し、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、市立川西病院は、昭和58年に中央町から現在の東畦野地内に移転し、診療科目も内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、耳鼻いんこう科、眼科、泌尿器科、麻酔科、放射線科を開設するなど、本市の基幹的な公的医療機関としての役割を担ってきました。

しかし、地域住民の医療に対するニーズが多様化してきている一方で、医師不足などにより診療体制を縮小せざるを得ない状況となってきたことから、平成21年には「市立川西病院事業経営改革プラン」を策定し、地域医療連携室や消化器内視鏡センターの開設をはじめとする経営の効率化を図ってきたところですが、その後も、医師数に大幅な減員が生じたことにより、入院及び外来患者数が大きく減少し、経営は非常に厳しい状況が続いています。また、平成23年には、改革プランの改定も行い経営効率化への努力を続けていますが、市からの補助金も年々増加しており、病院の経営は深刻な赤字状態が続いています。さらに、現在の市立川西病院は、建設以来29年が経過し、施設や設備の経年劣化や老朽化が進んでおり、今後、多様化する医療需要や医療サービスへの対応が困難となってきたことから、現在、市立川西病院のあり方の検討を進めています。

つきましては、市立川西病院の今後の方針を決定するにあたり参考とさせていただきたくアンケートを実施いたしますので、ご協力をお願いします。

なお、この調査は川西市の住民基本台帳から16歳以上の市民3,000人を無作為に抽出し、調査票を郵送させていただきました。

この調査は無記名によるほか、調査の目的以外には使用いたしませんので、よろしくお願いたします。

平成24年11月27日

川西市長 大塩 民生

### <ご記入にあたってのお願い>

- このアンケートは、送付させていただいた**ご本人**が、過去又は現在、市立川西病院を利用されている、利用されていないにかかわらずお答え下さい。
- なお、ご本人にお答えいただくことが困難な場合は、ご家族の方がご本人のことやお考えについてご記入いただいても結構です。
- 回答は、あてはまる番号に をつけてください。また( )内には具体的な内容のご記入をお願いします。
- この調査票は、**両面印刷**になっています。ご記入漏れのないようご注意ください。
- ご記入後は、同封の返信用封筒に入れて、12月17日(月)までに、郵便ポストに投函して下さい。(切手は不要です)
- この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

(問い合わせ先) アンケート調査に関すること  
川西市 総合政策部 政策課  
TEL 072-740-1120

病院経営・診療に関すること  
市立川西病院 経営企画室  
TEL 072-794-2321

## 市立川西病院に関するアンケート調査

問1 あなたは過去に「健診・人間ドック」以外の理由で入院や病院探しをしたことがありますか。  
 当てはまる番号いずれか1つに印をつけて下さい。

- |              |                         |         |
|--------------|-------------------------|---------|
| 1. 入院したことがある | 2. 入院はしていないが病院を探したことがある | 3. 該当なし |
|--------------|-------------------------|---------|

問2 現在、川西市には、市立川西病院・民間病院・診療所（個人医院）があり、川西市周辺にも病院がいくつかあります。仮にあなたが次のような状況になった場合に受診したいと思う医療機関を選んで、当てはまる所に1ヶ所ずつ印を入れて下さい。

	市立川西病院	市内民間病院	市外の医療機関	診療所（個人医院）	わからない
記入	1項目につき1ヶ所 ✓して下さい				
	健康や病気について気軽に相談したい時				<input checked="" type="checkbox"/>
	健康診断や人間ドックなどを受診したい時				
	出産を迎えた時				
	子供が病気をした時				
	夜間の急病や交通事故にあった時				
	大規模災害にあった時				
	入院を伴う手術を受ける時				
	リハビリを受ける必要がある時				
	長期にわたる入院が必要となった時				
	訪問看護や往診など在宅医療の支援が必要な時				
	難病治療など新たな医療を受ける時				
	命にかかわるような病気になった時 （がん、心疾患、脳血管疾患など）				
	がんなどの末期を迎えた時				
うつなど精神的な病気になった時					
健康や病気についての相談、予防、治療、疾病管理など総合的なサービスを受けたい時					

ここからは、市立川西病院についてお聞きします。

問3-A 川西市に市立川西病院（川西市東畦野・能勢電鉄山下駅徒歩15分）があるのをご存知でしたか？ 当てはまる番号に 印をつけて下さい。

- 1. 知っていた 問3-Bへ
- 2. 知らなかった 問4へ

問3-B 「知っていた」と回答された方にお聞きします。市立川西病院を利用されたことはありますか。

- 1. ご本人またはご家族が利用したことがある。
- 2. 利用したことはない。
- 3. 覚えていない。

問4 市立川西病院を利用されたことがある方はその時の経験をもとに、そうでない方は評判やイメージをもとに、次の項目を5段階で評価し、該当すると思われる番号に 印をつけて下さい。

	5 そう 思う	4 まあ そう 思う	3 ない どころ でも	2 あまり そう 思わ ない	1 そう 思わ ない	0 わか らな い
交通の便が良い	5	4	3	2	1	0
診療日や診療時間が利用しやすい	5	4	3	2	1	0
待ち時間が短い	5	4	3	2	1	0
医療機器や検査機器が充実している	5	4	3	2	1	0
医師の医療技術が高い	5	4	3	2	1	0
患者の立場で考えてくれる病院である	5	4	3	2	1	0
救急医療が充実している	5	4	3	2	1	0
難しい手術などを行っている	5	4	3	2	1	0
なんでも診てもらえる	5	4	3	2	1	0
専門性の高い病院である	5	4	3	2	1	0

裏面に続く



	そう 思う	まあ そう 思う	ど う も な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
ゆったり療養できる	5	4	3	2	1	0
気軽に診てもらえる	5	4	3	2	1	0
親切に世話をしてくれる病院である	5	4	3	2	1	0
他の医療機関との連携が良い	5	4	3	2	1	0
健康や病気について気軽に相談できる	5	4	3	2	1	0
全体的にみて、利用したい病院である	5	4	3	2	1	0

問5 市立川西病院は、今年で築29年となることから、今後10年以内に建て替えの必要性が想定されています。（建替えの場合は川西市からの補助金が必要となります。）

今後の市立川西病院のA.必要性、B.立地（継続の場合）、C.規模・診療科（継続の場合）について、それぞれ望ましいと思われる番号1つに印をつけて下さい。

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <b>A.必要性</b> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 継続（B. C.へ）</li> <li>2. 廃止（問6へ）</li> <li>3. 民間に譲渡（問6へ）</li> <li>4. わからない</li> </ol>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <b>B.立地 （継続の場合）</b> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北部（現在地）</li> <li>2. 北部（現在地以外）</li> <li>3. 中部</li> <li>4. 南部（JR線以北）</li> <li>5. 南部（JR線以南）</li> <li>6. わからない</li> </ol>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <b>C.規模・診療科 （継続の場合）</b> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 拡大する</li> <li>2. 現状維持</li> <li>3. 縮小する</li> <li>4. わからない</li> </ol> <p style="text-align: right;">問6へ</p>
--	--	--

北部・中部・南部の地域分けは、5ページの小学校区エリアを参考にしてください。

問6 市立川西病院に、特に期待する機能・役割や充実してほしい分野には具体的にどのようなものがあるでしょうか。下記の中から3つまで選んで該当する番号に 印をつけて下さい。

- 1 . 病気の予防や早期の発見に力を入れる（健康診断や人間ドックなど）
- 2 . 母子の健康管理や出産に対応してもらえる
- 3 . 子供の病気に対応できる
- 4 . 夜間救急や交通事故などの救急患者を積極的に受け入れる
- 5 . 大規模災害への対応ができる
- 6 . 入院を伴う手術などが行える
- 7 . 手術など重度な状態を脱した後、リハビリや療養などを行う
- 8 . 長期にわたる入院が必要となった場合に入院できる
- 9 . 訪問看護や往診など在宅医療の支援を行う
- 10 . 専門性の高い検査や難病治療など新たな医療を行う
- 11 . 命に関わるような病気の患者が入院できる
- 12 . がんなどの末期患者やご家族の方々に安心できる療養環境を提供できる
- 13 . うつなど精神的な病気を見てくれる
- 14 . 健康や病気についての相談、予防、治療、疾病管理など総合的なサービスを受けられる
- 15 . かかりつけ医と連携して、地域の医療水準の向上に貢献する病院
- 16 . 介護施設等の施設を併設している病院
- 17 . 特になし

問7 その他、市立川西病院に対するご意見やご要望などがありましたら、ご自由にご記入下さい。

裏面に続く

問8 ご意見をお聞きするのはこれで終わりですが、統計的分析に必要なため、該当する番号に 印をつけて下さい。

(1) あなたの性別	1. 男性                      2. 女性
(2) あなたの満年齢	1. 16～29歳    2. 30～39歳    3. 40～49歳 4. 50～59歳    5. 60～69歳    6. 70～79歳 7. 80歳以上
(3) あなたのお住まいのエリア(下記参照)	1. 北部    2. 中部    3. 南部    4. わからない

エリア名	小学校区	該当地区
北部	東谷	見野1丁目～3丁目、東畦野1丁目～6丁目、東畦野山手1丁目・2丁目、西畦野1丁目・2丁目、山原1丁目・2丁目、緑が丘1丁目・2丁目、山下町、笹部1丁目～3丁目、下財町、一庫1丁目～3丁目、東畦野(長尾を除く。)、西畦野、山原、山下、笹部、一庫
	牧の台	大和東1丁目～5丁目、大和西1丁目～5丁目、東畦野字長尾、長尾町
	北陵	美山台1丁目～3丁目、丸山台1丁目～3丁目
	黒川	国崎、黒川、横路
中部	多田	新田、矢間1丁目～3丁目、矢間東町、西多田(明峰小学校区を除く。)、西多田1丁目(1番・2番を除く。)、西多田2丁目、多田院(清和台南小学校区を除く。)、新田1丁目～3丁目、多田院1丁目・2丁目、多田院多田所町、多田院西1丁目、多田院西2丁目(5番を除く。)
	多田東	東多田、平野、鼓が滝1丁目～3丁目、東多田1丁目～3丁目、多田桜木1丁目・2丁目、平野1丁目～3丁目
	緑台	緑台1丁目～5丁目、緑台7丁目、向陽台1丁目・2丁目
	陽明	緑台6丁目、向陽台3丁目、水明台1丁目～4丁目、清流台
	清和台	石道、虫生、赤松、清和台東1丁目～3丁目、清和台西1丁目・2丁目
	清和台南	柳谷、清和台東4丁目・5丁目、清和台西3丁目～5丁目、多田院字滝ヶ原・駒塚・井戸ヶ上、多田院西2丁目5番
	けやき坂	芋生、若宮、けやき坂1丁目～5丁目
明峰	滝山町8番、萩原2丁目・3丁目、萩原台東1丁目・2丁目、萩原台西1丁目～3丁目、鶯が丘、西多田字上平井田・湯山裏・南野山、西多田1丁目1番・2番、錦松台、鶯台1丁目・2丁目、湯山台1丁目・2丁目、南野坂1丁目・2丁目	
南部	久代	久代1丁目～6丁目、東久代1丁目・2丁目
	加茂	南花屋敷1丁目～4丁目、加茂1丁目～6丁目
	川西	小花1丁目・2丁目、小戸1丁目～3丁目、栄町24番～27番、寺畑1丁目・2丁目、栄根1丁目・2丁目、下加茂1丁目・2丁目
	桜が丘	中央町、日高町、栄町(24番～27番を除く。)、花屋敷山手町、花屋敷1丁目・2丁目、満願寺、満願寺町
	川西北	美園町、絹延町、出在家町、丸の内町、滝山町(8番を除く。)、鶯の森町、萩原1丁目、火打1丁目・2丁目、松が丘町、霞ヶ丘1丁目・2丁目

アンケートは以上です。誠にお手数をおかけしますが、同封の返信用封筒に本アンケート用紙を折り込み、ご投函下さい。 ご協力ありがとうございました。

## ～アンケートを始める前にお読みください～

### 市立川西病院の現状と川西市の財政状況について

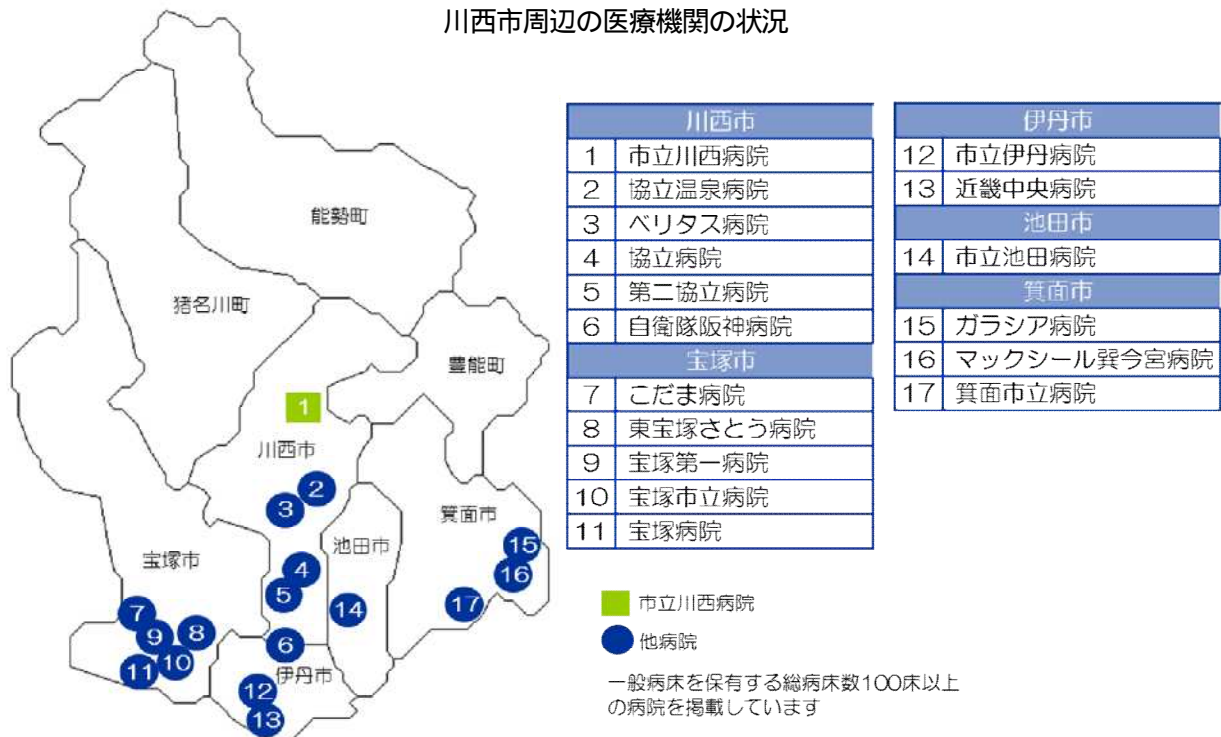
#### (1) 市立川西病院の現状

##### 市立川西病院の役割

市立川西病院は、本市の基幹的な公的医療機関として、地域住民の医療ニーズに応えるべく、救急医療、小児医療、周産期（妊娠・分娩）医療などの不採算・特殊部門に関わる医療の提供を行うなど、公立病院としての役割を果たしています。また、当院の位置する市北部においては、200床以上の一般病院がなく、当院は、市北部エリア及び本市に隣接する猪名川町、能勢町、豊能町の入院機能提供の中心的役割を担っています。

1) 施設概要				
所在地	川西市東畦野5丁目21番1号			
開設年月日	昭和58年10月4日			
敷地面積	14,936.06m <sup>2</sup>			
建物	病院本館	地上5階/地下1階	14,540.10m <sup>2</sup>	
	看護宿舎・保育園	地上5階	1,491.73m <sup>2</sup>	
	医師住宅	地上2階	317.84m <sup>2</sup>	
2) 診療科	内科(循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科)、小児科、外科、整形外科、産婦人科、耳鼻いんこう科、眼科、ひ尿器科、麻酔科、放射線科			
3) 病床数	250床(一般 229床、緩和ケア 21床)			
4) 病棟	3階北	35床(産婦人科、眼科、内科、未熟児・新生児室)		
	3階南	44床(小児科、眼科、内科)		
	4階北	50床(病棟休床)		
	4階南	49床(外科、ひ尿器科、内科)		
	5階北	21床(H25/1～緩和ケア)		
	5階南	51床(内科)		
5) 平成23年度末 総職員数	282.4名	職員	臨時又は非常勤	計
医師	:	21名	16.1名	37.1名
看護師(助産師、看護師、准看護師)	:	153名	12.4名	165.4名
医療技術職員(放射線・臨床検査技師他)	:	34名	14.5名	48.5名
事務職員(経営企画課、医事課、地域医療連携室)	:	11名	10.5名	21.5名
技能労務員(施設管理員、調理師)	:	0名	1.8名	1.8名
保育士、相談員、診療情報管理士	:	0名	8.1名	8.1名
※ 非常勤職員数は、常勤換算しているため 小数点表記しています。				

## 川西市周辺の医療機関の状況



### 市立川西病院を取り巻く環境

地域住民の医療に対するニーズが多様化してきている一方で、当院が提供する医療資源は、医師の退職が相次ぎ、診療体制を縮小せざるを得ない状況となっています。現在、近年の診療報酬のマイナス改定や、医師不足などにより収入が落ち込み、慢性的な赤字体質となっています。

病院の経営の建て直しを図るべく、平成 21 年に病院事業経営改革プランを作成し、改革に取り組みましたが、その後も医師の退職が続き、入院及び外来患者数が大きく減少しています。平成 23 年には、改革プランの改定も行い経営効率化への努力を続けていますが、市からの補助金も年々増加しており、病院の経営は深刻な赤字状態が続いています。さらに、現在の市立川西病院は、建設以来 29 年が経過し、施設や設備の経年劣化や老朽化が進んでおり、今後、多様化する医療需要や医療サービスへの対応が困難となってきています。

### 市立川西病院の患者数及び病床利用率

市立川西病院の患者数は、過去 3 年間で減少傾向にあります。平成 21 年度当初から内科、外科、耳鼻いんこう科の医師が退職し、続いて、平成 22 年度及び 23 年度には整形外科の医師が退職しています。

	H21 年度	H22 年度	H23 年度
1 日あたり外来患者数	609 人	557 人	488 人
1 日あたり入院患者数	164 人	158 人	137 人
許可病床数*	283 床	283 床	283 床
運用病床数**	201 床	201 床	164 床
病床稼働率（運用）	82%	79%	84%

\*許可病床数：保有しているベッド数

\*\*運用病床数：看護師等の配置があるベッド数

### 市からの補助金の状況

毎年度、9億円を超える補助金を市の一般会計から繰り入れています。

平成23年度の繰入金総額は1億1,758万円で、前年度に比べ1億2,084万円(12.1%)増加しています。収益的収入分は、主に救急医療態勢経費1億7,300万円、小児医療経費1億3,700万円、周産期医療経費1億3,300万円、医師確保対策経費1億1,400万円などに充てており、資本的収入分は、企業債償還元金2億9,052万円、建設改良費3,000万円に充てています

	H21年度	H22年度	H23年度
収益的収入分	6億9,438万円	7億2,005万円	7億9,705万円
資本的収入分	2億7,051万円	2億7,668万円	3億2,052万円
繰入金総額	9億6,490万円	9億9,673万円	11億1,758万円

### 市立川西病院の経営状況

現在、市立川西病院に限らず、病院経営は厳しい環境に置かれています。とりわけ、公的病院は、救急医療や小児医療などの政策医療のほか、いわゆる不採算の医療を抱えているため、大部分の公的病院が赤字となっています。市立川西病院においても、長年にわたり赤字経営が続いています。市立川西病院は、市から毎年度補助金を受けていますが、それでもなお、赤字額は毎年3～4億円を計上しています。

	H21年度	H22年度	H23年度
総収益(A)	42億6,338万円	43億5,995万円	41億2,537万円
総費用(B)	46億9,061万円	47億2,008万円	45億129万円
差引損益(A)-(B)	4億2,723万円	3億6,013万円	3億7,592万円

### 市立川西病院の施設・設備の状況

病院は建設以来29年が経過し、今後も使用し続けるのであれば、建物・設備の老朽化に伴い10年以内には大規模な改修工事が必要と想定されます。改修工事にかかる費用も毎年の補助金に加えて市からの負担で賄うこととなります。

また、仮に建て替えを行った場合の建築費用(医療機器費を含み、用地費は除く。)は、現在の病床数250床で試算すると約90億円(近隣の自治体病院整備試算単価35,963千円/床で算出)となります。

### 市の財政状況について

平成23年度の決算は、一般会計では基金(特定の目的のために積み立てや運用をしている資金)から繰り入れを行った結果、実質収支額が3億7,375万1千円の黒字となり、平成22年度と比較すると1億22万円の減となっています。

また、特別会計は6事業合計で5億2,826万6千円の赤字となっていますが、このうち、国民健康保険事業が7億717万9千円の赤字となっています。

一方、中期財政収支計画(平成24年11月現在)では、平成24年度以降は、納税対象となる人口の減少により、個人市民税の減収が続き、歳出においては、社会保障経費の増加や、公債費の増加による負担が大きく、借り換えによる公債費負担平準化や、地方債発行などによる学校

耐震化の負担の平準化を行っても、平成25～29年度の5年間で48億9千万円の収支不足が見込まれます。

これらの財源不足を補うため、行財政改革を実行していくこととしていますが、5年間では7億8,200万円の効果にとどまり、収支均衡を図るためには、毎年度、基金の繰り入れが必要な状況となっています。

公債費とは、市が公共施設を整備するためなどに借入れたお金（市債）の元利償還費と一時借入れ金の利息の合計をいいます。

平成23年度(2011年度)決算総括表

(単位:千円)

区分	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出 差引額	翌年度へ繰り 越すべき財源	実質収支額	22年度実質収 支額	増減	
	(A)	(B)	(C)=(A)-(B)	(D)	(E)=(C)-(D)	(F)	(G)=(E)-(F)	
会計								
一般会計	47,608,391	47,219,642	388,749	14,998	373,432 373,751	473,464 473,971	100,032 100,220	
特別会計	国民健康 保険事業	16,475,447	17,182,626	707,179	0	707,179	679,932	27,247
	後期高齢者 医療事業	2,008,410	1,962,643	45,767	0	45,767	70,796	25,029
	農業共済 事業	11,838	11,838	0	0	0	0	0
	介護保険 事業	9,177,913	9,044,767	133,146	0	133,146	184,455	51,309
	用地先行 取得事業	2,425,387	2,425,387	0	0	0	0	0
	中央北地区土地 区画整理事業	1,768,451	1,747,024	21,427	21,427	0	0	0
	特別会計 合計	31,867,446	32,374,286	506,840	21,427	528,266	424,681	103,585
一般・特別 合計	79,475,837	79,593,928	118,091	36,425	154,834 154,515	48,783 49,290	203,617 203,805	

(注) 23年度一般会計実質収支額上段は、翌年度に返還する災害援護資金貸付金(阪神・淡路大震災の被災者への貸付金)返還金(319千円)を除いた実質収支額である。

(注) 表内において、各項目の合計と合計欄の数値が端数処理により一致しない場合がある。(以下の表についても同じ)

中期財政収支計画での収支不足額						(百万円)
	H25	H26	H27	H28	H29	合計
歳入総額	31,977	32,319	32,327	32,487	32,584	161,694
歳出総額	33,628	33,617	33,401	32,845	33,093	166,584
収支不足額	-	1,651	1,298	358	509	4,890